

「協力伝道週間」に寄せて

私たち日本バプテスト連盟は、毎年1月の最終主日から2月の第一主日までを「協力伝道週間」として、協力伝道の働きを確認し、その働きを支える協力伝道献金を覚える時としています。

2023年度から連盟は機構改革による新機構で協力伝道がスタートします。今機構改革では、「今、共にキリストを証しするために～これからの協力伝道」を主題とし、①各個教会・地域主体の協力伝道、②多様な声が響き合う連盟、そして、③協力伝道献金体制の確立を目指しています。その具体として、総会改革を行いこれまでの代議員制から教会単位で構成される総会、一教会一票による総会としました。そして、全教会が総会に参加することを目標とし、今後リモートでの参加を含めたハイブリッド形式による総会の実施の準備にあたっています（今回第68回定期総会は書面による総会）。また、多様な声が響き合う連盟を目指し理事選挙制度の改革を行いました。教会推薦による候補者の擁立、これまで男性教役者に偏っていた理事会構成を改めるためにクォータ制を導入しました。

さらに、協力伝道の諸活動の推進にあたっては、連盟事務所に立てられた、特に宣教部の室長と専門委員による企画推進から、常設委員会による協力伝道の企画と推進にあたっていきます。宣教部では、2023年度よりこれまで多くの働きと責任を担ってこられた室長を置かなくなります。二部九室で構成されていた事務所の体制は、総務室、宣教室、常務理事室の三室体制へと移行していきます。そのため、連盟事務所で担う働きは限定的になってまいります。

私たちが総会で承認した機構改革には、このような大きな変化が伴う改革であることを改めて確認しつつ、今年度の「協力伝道週間」を歩みたく思います。

「協力伝道週間」は、連盟結成50周年を迎えた1997年度より設置されました。第46回定期総会に提案された1997年度・1998年度活動方針に記されています。そこには「協力伝道週間」の趣旨として「この週間には連盟の協力伝道の働きをおぼえ、他の教会・伝道所のために祈るプログラムを提供する。諸教会から届けられる『協力伝道献金』による働きを共有し、その目標額の達成に努める」と記されています。この趣旨に沿って、今年度のポスターでは、機構改革の主題と聖句、そして改革の目指す「これからの協力伝道」の三つの重点項目と「協力伝道献金」の目標額を記しました。また、同封している「祈りの暦」（『バプテスト』誌23年1月号掲載と同じ）には、機構改革の備えも含めた協力伝道の働きの具体と祈りのテーマを記しています。これらのものを用いて協力伝道の働きを覚えてお祈りください。また、各個教会におかれましては「協力伝道週間」を自ら主体的に協力伝道の代わりに加わったことを覚え、「協力伝道」を主体的に支えることを確認する「時」としていただきたく思います。そして、「協力伝道週間」の時を、他の教会・伝道所のために祈る、「祈りにつながる協力伝道」のまじわりの豊かさと恵みの時として大切に参りましょう。

「今、共にキリストを証しするために～これからの協力伝道」の主題のもと、「今」という時代の中で「キリストを証し」するために、共に福音宣教の働きに仕えてまいりましょう。近隣教会、地方連合の教会を喜び合い、祈り合ってまいりましょう。そして、「共に」協力伝道の働きを担い合い、協力伝道献金が達成できるよう「協力伝道献金の『祈りと励ましの標準比率』」（2013年第53回定期総会改定）を確認し、励まし合い、捧げてまいりましょう。

2022年12月13日

日本バプテスト連盟 理事会



「協力伝道週間・祈りの暦」

2023年1月29日(日)～2月5日(日)

4月より新たな機構となります。今機構改革の主題は「今、共にキリストを証しするために～新たな『自立と協力』～各個教会・地域が主体となる協力伝道～です。その目指すものは、①各個教会・地域主体の協力伝道、②多様な声が響き合う連盟機構へ、③協力伝道献金体制の確立、です。「連盟はわたしたち」との思いの中で、連盟の諸活動・課題を共有し、祈りに覚えていきましょう。

■1/29・日 [震災支援、国内伝道]

①東日本大震災で被災された方々に寄り添う東北連合諸教会の働きのために。②東京電力福島第一原発事故による健康被害に心痛める方々が希望をもって生活ができるように。③全国支援・地域協働プロジェクト(北九州・22年度最終、東京北・26年度まで)のために。※福井教会PJは第68回定期総会上程予定。④教会特別支援を通して、教会活動が守られるように。⑤CBFとの宣教協働が祝されますように。

■1/30・月 [国外伝道・国際協力]

①国外の働き人を覚えて：野口日宇満・野口佳奈両宣教師(インドネシア)。嶋田和幸・嶋田薫両宣教師(カンボジア・22年度末任期終了)。佐々木和之IMV(ルワンダ)。②シンガポール国際日本語教会(IJCS)と連盟との新たな「宣教協働」を覚えて。③日本バプテスト女性連合と世界バプテスト祈禱週間献金(22年度目標額3,500万円)を覚えて。④BWA、APBFとの連携。BWAid、APBAidを通じての支援が用いられるように。アジアと世界で命の安全と生活が支えられるように。⑤連盟と女性連合の協働による「これからの国外伝道」検討のために。

■1/31・火 [青少年、教会教育、教会音楽]

①[青少年]「青少年が生きる信仰共同体の支援」(現中長期)によるプログラムを通して豊かな出会いが起こされてきたことに感謝。これらの働きで培われてきたことが大切にされていきますように。23年度以降、新たな機構の下での「全国ユース大会」(仮称)が実現するように。②[教会教育]諸教会で、聖書を中心に学びの場が大事にされ、それぞれの工夫が新しい扉を開いていくことができるように。これからも『聖書教育』が皆さまと共に歩んでいくことができますように(23年4月から月刊化)。③[教会音楽]中長期の歩み、コロナ危機を通して、礼拝と賛美について多くの視点が示され、教会形成に資する対話が豊かに導かれてきたことに感謝。今後、これらのことを大切に礼拝と賛美の再考・再興がなされますように。

■2/1・水 [宣教研究所]

①時宜にかなった宣研の働きとポストコロナを見すえ諸教会の働きに資する研究と研修のために。②新任牧師・主事研修会(3/1-4)の準備と運営委員会、宣研スタッフの働きのために。③機構改革が進められる中、今後の宣研のために。

■2/2・木 [伝道者養成・神学校]

①諸教会・伝道所から、献身者が起こされるように。②西南学院大学神学部・同大学院神学研究科、東京、九州両バプテスト神学校で学ぶ神学生、教員・スタッフのために。③全国壮年会連合同奨学金委員会のために。「神学生奨学金献金」(神学校献金)目標額3,000万円が満たされるように。④これからの伝道者養成のために(第68回定期総会で基本理念改定が提案)。

■2/3・金 [理事会、委員会、監事、総役員会]

①理事会、特別委員会〔靖国、公害、日韓・在日、部落、ホームレス支援、性差別、障がい者と教会、財務、回転資金、神学教育、資料保存、ハラスメント対策*23年度から常設〕、臨時委員会〔平和宣言推進、憲法アクション*休止中、東日本大震災被災地支援、これからの連盟検討、これからの伝道者養成検討、これからの国外伝道検討/以下は23年度から：国外伝道臨時、パブ誌編集、新機関誌検討〕、監事、総役員会、選挙管理委員会、予算審査委員会、総会牧師(第68回定期総会が最後)の働きのために。②機構改革を覚えて。次期理事会と常設委員会(総務、財政、地域協働、研修)の引継ぎと準備のために。

■2/4・土 [協力伝道献金、教役者退職金制度]

①協力伝道献金体制を目指し「祈りと励ましの標準比率」を大切に、協力伝道の働きに祈りを合わせて。②コロナで厳しい状況の教会の必要が満たされるように。回転資金緊急特別貸付制度(貸付期間2023.3末迄)。③教役者退職金制度の理解が深められ、財源が満たされるように。

■2/5・日 [諸教会・伝道所、連盟事務所]

①諸教会・伝道所が祈りで結ばれ、福音宣教の働きが豊かに祝されるように。②教役者の働きと生活が守られるように。③無牧師の教会・伝道所を覚えて(専任牧師不在34教会・7伝道所)。④変革の中にある連盟事務所の働きを覚えて。

日本バプテスト連盟

2022年度 協力伝道週間

2023年1月29日【日】～2月5日【日】

主題：「今、共にキリストを証しするために
～新たな『自立と協力』
～各個教会・地域が主体となる協力伝道～

聖句：「愛を身に着けなさい。
愛は、すべてを完成させるきずなです」
コロサイ 3:14

機構改革の大方針

- ① 各個教会・地域主体の協力伝道へ
- ② 多様な声が響き合う連盟へ
- ③ 協力伝道献金体制の確立

2022年度協力伝道献金目標額 119,000,000円

● 教会／伝道所の献金目標額

円

協力伝道週間・祈りの暦は『バプテスト』誌1月号、
または連盟ホームページをご覧ください▶▶▶



協力伝道献金の祈りと励ましの
標準比率▶▶▶

